

## 平成30年度 社小学校教職員による自己評価

※採点：4…できた 3…ややできた 2…ややできなかった 1…できなかった

### 1 研修について

#### (1) 主体的な研修<3.4>

「誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。」

##### 【成果や課題】

- スキルアップ研修（本校教師が講師となり、本校職員の資質向上をねらった研修）など様々な研修があり、指導技術の向上に役立った。
- 教科部の授業研究では、授業だけでなく事前研修、事後研修をしっかりと行った。
- 教科部での研究は深まったが、研究主題を十分に意識した研究とは言えない。

##### 【改善・確認事項】

- ★2020年度の学校経営研究会にむけ、研究テーマの見直しを行う。
- ★研修のあり方（誰もが講師になる場の設定。全体研修を減らし、個人研修を増やすなど）について協議する。

#### (2) 検証的な実践<3.2>

「研究の道筋を具体的にし、その検証に努め交流によって深める。」

##### 【成果や課題】

- 各教科部では、事前研修、事後研修がしっかりと行われた。

##### 【改善・確認事項】

- ★児童の姿からの事後研修に加え、発問、手立てに焦点を当てた事後研修を行う。

#### (3) 「つながり」を意識した実践の検討<3.3>

「既習事項を活用させたり学習の見通しを持たせたりして学びのつながり意識した授業づくりを推進する。」

##### 【成果や課題】

- 既習事項の復習を授業の始めに行ったり、既習の単元とのつながりを意識した授業を考えたりすることができた。
- はげみカード（各時間の目当て、振り返りを書くスペースを表にしたもの）を活用し、教師と児童で学習の見通しの共通理解できた。
- 授業の始めに既習事項の復習を行ったが、それが、授業時間を圧迫した。

##### 【改善・確認事項】

- ★指導案に系統性を明記する。小学校6年間だけでなく、中学校での学びも意識する。
- ★朝の学習タイムを設定し、既習事項の復習を行う。

#### (4) 互恵的な学習文化<2.8>

「互いの学びを持ち寄り、支え合い教え合い、深め合う学習を定着させる。」

##### 【成果や課題】

- ペア・グループ学習など学習形態を工夫し、意見を発信する活動を行うことで、知識・技能が定着したり、考えが深まったり広がったりする授業が展開できた。
- 意図が明確でないペア・グループ・全体学習が多く、互恵的な学習を通して深め合

う学びの機会があまりみられなかった。

●「児童の主体的な学び合い」と「教師が教えること」のバランスが難しい。

**【改善・確認事項】**

★協同学習に関する研修での学びを授業実践につなげる。

★単元や1時間の授業のグループ学習を明確な意図のもと計画的に取り入れる。

## **（5）学力の定着<2. 7>**

**「基礎基本の定着を図り、学力を高めさせる。」**

**【成果や課題】**

○全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた共通理解を行い、「凡事徹底」「練習問題や適用題の重視」について提案があったこと、さらにそのことが授業改善につながったことは大きな成果である。

○復習プリントを使い、練習量を増やしたり、個別に支援をしたりすることで基礎基本の定着が図られた。

●基礎基本の定着がまだまだ不十分であり、学力を高められているとは言えない。

●計算力は伸びても、文章題に対応できるような思考力がついていない。

**【改善・確認事項】**

★朝の読書の時間を朝の学習タイムとし、基礎基本の定着を図る。

★来年度から行われる「学力診断テスト」や、つまずきに対応した「算数データ問題集」を活用し、学力の向上を目指す。

## **2 組織について**

### **（1）計画的なケース会議 学年会議<3. 7>**

**「時には広く、時には深く情報を集め、継続的・重点的なチーム指導を進める」**

**【成果や課題】**

○毎週の学年会、ケース会議が定着している。学年の児童の様子を共通理解して、さまざまな教師が児童に関わることができた。不登校傾向児童に対するケース会議が開かれ、対応について話し合われた。チームで子どもたちを育てる風土ができた。

○学年の情報を交流し、管理職、生徒指導担当とも情報を共有できている。スクールアシスタントや介助員からの情報収集を行っている学年もある。

**【改善・確認事項】**

★学年の会にスクールアシスタントや新学習システムも参加し、情報共有をする。そのための時間調整を行う。

### **（2）協同的な特支教育<3. 3>**

**「児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。」**

**【成果や課題】**

○啓発朝会、きらきら学級授業研究、インクルーシブ研修、年度初めの気になる児童の共通理解などで、全校的に取り組むことができた。

○クラスにいる支援の必要な児童の様子を伝え合う研修があることで、他の先生がどのような支援をしているかが分かり、学びの場になった。

●自分のクラスにいる特別支援学級の児童と、他の児童のかかわり方はもっと踏み込んだ指導をすべきだった。

●研修で学んだことを、クラスで生かすことができていない。

**【改善・確認事項】**

★研修で学んだこと、共通理解したことを学年や学級でどのように具体的な支援につなげていくかについて、学年で話し合う場をもつ。

**(3) サポートファイルの効果的な活用<<3. 3>>**

「個別の支援計画・指導計画を活用し、各関係機関との連携して個に応じた支援を継続する。」

**【成果や課題】**

- これまでの支援や手立て、児童の様子、保護者の思いが分かり指導に役立った。
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成したことで指導方針が明確になり、個に応じた指導、支援にあたることができた。
- サポートファイルは年度初めにじっくり確認するのみで、十分活用されていない。

**【改善・確認事項】**

★年度初めの児童の引継ぎ時には、サポートファイルを見ながら引継ぎを行う。  
★学年会で支援方法について話が出た時や支援計画を作成する時期にはサポートファイルを見直し、活用していく。

**(4) 組織的な生徒指導<<3. 5>>**

「いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。」

**【成果や課題】**

- 生徒指導担当を中心に問題行動等に対し、組織で早期対応が行えている。また、生徒指導委員会において、学年間の情報共有も定期的に行っている。
- 生活実態把握調査において、嫌なことがある児童について聞き取りをしてもらっており、いじめの未然防止、早期発見に役立っている。
- 学年会・ケース会議が、いじめ未然防止にもつながっていた。小さなことでも、校支援の掲示板にアップし全職員が知っており、早期対応につながっている。

**【改善・確認事項】**

★いじめに関しては、アンケート後に学年で相談して認知し、共通理解をはかる。未然防止・早期発見・早期対応に努める。  
★情報の共有と公開、組織で早期に対応する。児童のストレスを貯めない指導、自尊心感情を高める指導をさらに推進する。

**3 職場環境について**

**(1) 勤務時間の適正化<<2. 4>>**

「計画的・効果的に業務を行い、勤務時間の適正化を推進する。」

**【成果や課題】**

- 木曜日の定時退勤については、ほぼ実施できている。他の曜日についても、自分の意識を変えもっと推進しなければいけない。
- 職員会議については時間短縮されている。(校支援の掲示板の活用、事前の資料配布、会議や研修の進め方等)
- 時間外の打合せ(学年会・各種委員会・研究部など)も多々あった。
- 勤務時間外の仕事があるという認識が当たり前になってきている。定時退勤するこ

とによって、持ち帰り仕事、遅くまでサービス残業・休日出勤しが増えているのでは元も子もないので、実質的な適正化を図る方策を検討する。

- はげみ通信（通知表）の所見欄の負担が大きい。学年によっては4種類の所見を書かなければならない。学期末の負担が特に学年が上がるほど大きい。

#### 【改善・確認事項】

- ★職員会議方式で、どの会議、打ち合わせ、事前研・事後研でも、資料（指導案）の事前配布をする。柱を立てて臨んで、時間と内容の効率化を図る。
- ★学校改革委員会等で、業務の見直しなど方策を考える機会を持つ。
- ★はげみ通信の所見のために、見通しを持って日頃から補助簿をつけておく。

### （2）風通しのよい職場づくり≪3. 4≫

「職員誰もが自分の意見を発言したり、相談し合ったりして、児童に関する情報や教育実践の成果を共有する。」

#### 【成果や課題】

- 様々な先生方が、授業方法や指導方法を伝え合える環境が整っていた。生徒指導のことや学習指導のことを相談すると快く相談に乗ってもらえた。
- 学年主任を中心に、学年がまとまっている。学年や学年層で情報を共有したり相談し合ったりしながら教育活動にあたることができた。
- 先生同士、職員室でも挨拶が少ないこともある。朝や帰る際の挨拶の励行を行いたい。

#### 【改善・確認事項】

- ★学年団だけでなく、他学年、職員どの人とも挨拶、言葉を交わす関係づくりを意識する。（挨拶励行・親睦時の工夫）
- ★児童の姿を中心にした会話を学年を越えてする。（学級通信の交流、わくわく班、学年発表などを活用）

## 4 環境について

### （1）意欲向上の掲示物≪3. 1≫

「学習意欲が向上する計画的・継続的な掲示を工夫する。」

#### 【成果や課題】

- 職員室前掲示を児童が見るようになっている。
- 教室内で学習の足跡、自学ノートや作品の掲示がなされていた。
- 何年も貼ってある掲示物は外した方がよい。

#### 【改善・確認事項】

- ★学習内容に関わる教室内の掲示、環境づくりを継続する。

### （2）美しく安全な学校≪3. 3≫

「きちんと清掃・修理・整理され、そして、花いっぱい 학교を維持する。」

#### 【成果や課題】

- 玄関の花など美しい環境が維持されている。
- 修繕が早く、整理整頓もできて、美しい教室が保たれている。
- スリッパをそろえる、靴箱の整頓にもっと力を入れて指導をしたい。

#### 【改善・確認事項】

★整理整頓の指導の徹底、学校設備の素早い修理などを継続して行う。

## 5 開かれた学校について

### (1) 積極的な情報提供≪3. 3≫

「各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。」

#### 【成果や課題】

- 学校、学年、学級通信が計画的に出されている。
- HPの更新は、前年度よりできていると感じる。
- 学級通信発行についての昨年度の反省が生かされていない。(学年の足並みをそろえること、通信で積極的に情報を発信すること)

#### 【改善・確認事項】

- ★学年で発行数をできるだけ揃える。また、通信の交流を学校全体でできるように、誰でも、他のクラスの通信を見られるようにする。
- ★ホームページの更新を忘れないために、情報委員会で声を掛け合ったり、学年層でチェックしたりする体制を作る。

### (2) 地域の活用≪2. 8≫

「授業や行事などで地域を活用するとともに、感謝の心を育てる。」

#### 【成果や課題】

- 行事を通して地域の方と触れ合える機会がある。
- 地域に出て学習することができた。(総合・社会・図工・生活)
- 学年によって地域の活用には差がある。
- 地域を活用する学習をカリキュラム内に組み込むことが難しかった。

#### 【改善・確認事項】

- ★実践を通して地域人材バンクを充実させていく。
- ★年間一回は人材活用の単元を実施し、年間計画への明示をしていくことを継続する。
- ★生活・総合のあしあとカリキュラムを残す。新年度それを参考に、地域人材活用の単元を計画する。

## 6 自律力について

### (1) 主体的な規範意識≪3. 3≫

「ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。」

#### 【成果や課題】

- 運営委員会や各委員会の発信は、年々充実している。全校生のための仕事をしている意識を高学年に持たせて仕事をし、充実感を持たせることが大事である。
- お知らせ朝会、放送、掲示物などを活用して、自主的な取組ができている。
- 発信している委員会の児童以外は、情報を受け身に聞いてしまっていて、そのルールやマナーの理由まで考えられていない。

#### 【改善・確認事項】

- ★放送や朝会を通してさらに児童からの発信を続けていく。
- ★PDCA(計画、実行、評価、改善)を意識して指導する。

## **(2) 熱心な清掃活動<2.9>**

「すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。」

### **【成果や課題】**

- 10分で清掃をすることが定着してきた。丁寧に掃除をする児童が増えてきたと感じる。
- 一人一当番にすることで、すべきことを明確にしたが、考えさせる掃除までには至らなかった。

### **【改善・確認事項】**

- ★他の教師の指導方法の良い所を自ら足を運び、学びに行く。
- ★掃除を時間いっぱいまでする、掃除中のトイレも原則禁止などルールの徹底を行う。

## **(3) 継続的な「挑む」「あきらめない」場<3.0>**

「自分の目標や学級・学校づくりに挑み振り返る、継続的な場を設営する。」

### **【成果や課題】**

- ことあるごとに学級目標を子どもたちと振り返った。
- 「挑む」に関しては、児童は意識していた。「あきらめない」がもう1歩という感もあるが、周囲の児童の温かい声かけにより諦めず頑張れる児童も増えた。

### **【改善・確認事項】**

- ★目標を視覚化することにより、常に目標を意識して生活できるようにする。
- ★目標を振り返り、自己採点（評価・振り返り）する場を設ける。

## **7 自治力について**

### **(1) 丁寧な準備<2.8>**

「児童が主体的な話し合いや活動に安心して臨めるよう準備する。」

### **【成果や課題】**

- 学級での話し合いの仕方の流れを知らせ、どの児童が司会になっても進められたり、意見を出し合えたりするように取り組めた。
- やしろっ子委員会やわくわく班活動など、ルールや期限などの最低限の枠組みを作ることによって、子どもたちの自主性にある程度任せながらも、円滑に活動や話し合いが進んでいるように感じる。
- 教師主導の話し合い活動が多くなってしまった。
- 主体的な話し合いをするためには、形を教え、時間を確保することが必要である。

### **【改善・確認事項】**

- ★特活担当からで提案された話し合いの方法を積極的に活用して、学級での話し合いに生かす。

### **(2) 元気な遊び集団<2.8>**

「仲間とともに外で元気に遊ぶ集団をつくるとともに、教師もともに遊ぶ。」

### **【成果や課題】**

- みんな遊びの時間をとても楽しみに、仲良く楽しく遊ぶことができた。すると友達を誘って遊ぶ姿が増えてきた。
- 体育委員会の外遊びを奨励する取組はよかった。
- 教師がもっと外に出て児童と一緒に遊んだ方よい。児童と関係が密になったり、児

童の素顔を知ったりすることができると思う。

- 外に遊びに行く子が固定しているように感じる。
- 給食指導、生徒指導、学級事務等が多忙であり、一緒に外に出ることは難しい。

#### 【改善・確認事項】

★給食の時間を決める。(食べる時間は20分間、食べきれない児童は1時10分まで)

★給食の遅い児童を配食室まで連れていくのに、各学年の担任の先生で分担する。

### (3) 次に生かす振り返り<<2.8>>

「自立と共生を視点に、話し合いや活動を具体的に振り返らせる。」

#### 【成果や課題】

- 代表委員会を中心に、行事等の振り返りがしっかりできている。
- 振り返りをもとに徐々に児童が計画、準備を進めるようにした。失敗しそうなときの声掛けをし、自分たちでやり遂げた成就感・達成感を味わわせるようにした。
- 教師がやってしまうのではなく、子どもたちの自立・共生の視点を持ち、意図的に関わっていくことがより一層必要に感じる。
- やしろっ子委員会などで、児童中心に活動の振り返りの話し合いなどが行っていた。しかし、その振り返りが翌年の行事のときに生きているかは疑問である。

#### 【改善・確認事項】

★振り返りのあり方・仕方について、それぞれの教師が社っ子委員会やベテランの先生の教室を見学して学ぶ。

## それぞれの教職員からの意見

### (1) 道徳教育

- 年間指導計画の確立ができ、授業時間確保ができた。
- 研修で授業を見せてもらう機会があり、勉強になった。
- 評価をするためには、ねらいに迫る授業力が必要である。授業力を上げていく必要がまだまだある。また、評価の文章表記もこれでいいのかと、手探りであった。

#### 【改善・確認事項】

★評価文の交流をする。

★研究授業をしたり、観たりすることに尽きる。来年度も授業公開を続ける方向で研修を続けたい。

### (2) 外国語

#### 【成果や課題】

- 遊びや歌の学習をしながら外国語を身に付けていっている。積極的にALTの先生にコミュニケーションを取りに行く児童も増えた。
- 積極的な授業公開ができた。誰もが、T1として授業を主導できる力量をつけたい。
- 授業の展開案もALTに任せっきりになってしまった。

#### 【改善・確認事項】

★教科化に向けて、来年度も教職員の研修を実施する。また、授業づくりについても研修を行う。

### (3) 食育推進

## 【成果や課題】

- 自分で育てた野菜を調理し、食べることで野菜嫌いの児童も喜んで食べられた。
- クッキングチャレンジカードの実施で、親子で食について考えることができた。
- 給食委員が残菜をなくす取組を行い、残菜を減らそうとする児童が増えた。
- 学級園の手入りを積極的に行い、食育につなげていく必要がある。
- 外部機関との連携が不十分である。
- 給食の残菜が依然多い。また、給食時のマナーの指導が不足している。給食中の環境（放送が大きい、選曲）を変える必要がある。
- 加東夢プランなど、給食センターの取組の周知が不足している。

## 【改善・確認事項】

- ★栽培→収穫→調理→食事の流れは継続して行うこととする。
- ★給食センターの取り組みの紹介と食事中のマナーの指導を行う。
- ★残菜〇に向けて、最初に配りきることを徹底する。

## (5) その他

### ① 体力向上

- ★なわとび集会は中止するが、なわとびカードは継続して作成し、体育の準備運動で活用したり、休み時間にも取り組めたりするようにする。

### ② 人権教育

- ★同和教育の充実を図る。同和教育について、我々が正しい認識を学ぶとともに、教科等（道徳・社会科など）を通して同和教育の充実を図ることに取り組む。

### ③ ICT環境

- ★ミニ研修会を行い、ICT機器の活用の仕方を交流する機会を設ける。
- ★参観日3回のうちいずれかに、学年で全学級とも使って授業公開する。

### ④ 言語環境

- ★児童同士の言葉遣いや、敬語が使えるかなど、どの教師もみんなが意識を高く持って指導したい。教師自身もきちんと述語、語尾まで丁寧に話す。
- ★あいさつは、教師も児童も、校門だけでなく廊下や学校内、登下校時、どの場面でもできるよう取り組む。